

高校生の多様な他者と関わる力を育成する指導の在り方
—自己理解の深化と互いに認め合う活動を通して—

福島県立福島商業高等学校 教諭 森 若菜

1 研究の趣旨

「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」(文部科学省、2022)によると、全日制高等学校における不登校の要因として「いじめを除く友人関係をめぐる問題」が「学校に係る状況」の中で最も多い割合になっている。また、「平成30年度若年者雇用実態調査の状況」(厚生労働省、2019)では、採用後1年未満での離職の原因は、「人間関係がよくなかった」と回答した割合が最も多い。このことから、高校在学中だけではなく、高校卒業後も人間関係に悩みを抱えていることが分かる。そのため、高等学校において、自分とは違う多様な価値観を理解し、自分の考えを伝えることができるようにすることで、豊かな人間関係を育む力につなげていきたいと考えた。以上のことより、本研究では、「多様な他者と関わる力」を「自分とは違う多様な価値観を理解し、自分の考えを適切に伝える力」と捉え、研究を進めることとした。

ホームルーム活動において、以下の手立てを講じれば、自己理解を深める活動と互いに認め合う活動が充実し、多様な他者と関わる力を育成することができるであろう。

【手立て1】多様な価値観を受容するためのスキルの習得

【手立て2】対話活動における習得したスキルの活用

2 研究の概要

(1) 【手立て1】多様な価値観を受容するためのスキルの習得

最初に、多様なものの見方・考え方があることを知るために、感情のタワー^{※1}の演習を行うことで、自他の価値観を尊重し、認め合う基盤をつくる。次に、リフレーミング^{※2}とABC理論^{※3}を用いて自らの考え方を広げたり視点を変えたりして、「価値観を広げるスキル」の習得を図る。最後に、アサーショントレーニング^{※4}を用いて、「自他を尊重した伝え方のスキル」を習得できるようにする。

※1 自分の感情だけではなく、他者の感情との違いを理解し、多様なものの見方・考え方をすることができる演習(福島県特別支援教育センターコーディネートハンドブック 2020年版)

※2 物事を見る枠組みを変えて、違う視点で捉えること

※3 出来事をどう受け取るかによって結果が決まるという考え方

※4 自分も相手も大切に自己表現という意味を持つコミュニケーションの考え方と方法

(2) 【手立て2】対話活動における習得したスキルの活用

【手立て1】で習得したスキルを日常生活でも活用できるようにするために、その練習の場として、対話活動を設定する。その際、「問いに正解はなく自由に発言してよい」という哲学対話の要素を取り入れて対話活動を行う。また、多様な他者と関わるできるように、グループのメンバーの組合せを変えながら話し合いを続けるワールド・カフェの手法を用いる。さらに活動の際には、多様な意見が出るような問いを設定する。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 自己理解を深め、互いに認め合う活動が充実し、その活動の中で多様な価値観を受容するためのスキルの習得、活用ができるようになった生徒が増加した。スキルの有用性を実感し、日常生活においてもスキルを活用しながら、多様な他者と関わろうとしていることが確認できた。

(2) 今後の課題

- 【手立て2】の対話活動において、自分の考えが認めてもらえるかどうか不安に思い、自分の考えを伝えることに難しさを感じた生徒がいたため、相互評価によって自他の考えのよさをフィードバックする機会を設定し、スキルを活用しながら多様な他者と関わることに支援していきたい。